

第36回 内陸アジアの遊牧民①

1 遊牧民の社会と国家

- 中央ユーラシア（内陸アジア）は、乾燥した草原地帯で農耕が難しかった。
→羊・牛・馬・ラクダなどの家畜を扱う多くの（ ）は、草と水を求めて季節的に移動し、遊牧と狩猟の生活を営んでいた。
- 前9～8世紀に、青銅製の馬具や武器を持つ騎馬遊牧民が登場した。
→しばしば定住農耕地帯に侵入し、強力な指導者のもとで遊牧国家を形成した。
→遊牧や略奪を行うだけでなく、「 」を通じた交易や文化交流にも大きく貢献していた。



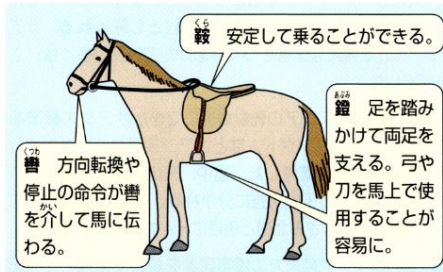
2 スキタイと匈奴

- 前7～前3世紀ころ、文献に残る最古の遊牧国家である（ ）が、黒海北岸の南ロシアにおける草原地帯を支配した。
→独特の動物文様を持つ金属製の馬具や武器を用いるなど、（ ）を生み出し多くの遊牧民に影響を与えたが、文字はなかった。



スキタイの装飾品

スキタイはイラン系の民族と言われ、その特徴はヘロドトスの『歴史』に詳しく書かれている。黄金製の装飾品が多数出土しており、高度な文化がうかがえる。



古代では馬に引かせる戦車が主流だったが、馬具の発明により、直接馬に乗ることができるようになった。徒歩で100日以上かかった場所へ1週間で行けるようになり、人々の距離感やスピード感が大きく変わったとされる。

☆（ ）（前4世紀ころ～後5世紀ころ）

- スキタイの影響を受けて陰山山脈の近郊で活動し、前3世紀に中国周辺に現れた。
- 前3世紀、（ ）の始皇帝は蒙恬に命じて匈奴を攻撃し、オルドスを奪回した。
→また、匈奴の侵入を防ぐために万里の長城を修築・増築した。

- ◆ () (在位 前 209～前 174 年)
 - ・全盛期をむかえ、前 200 年には () の () を破った。
 - ・東胡を滅ぼし、さらに月氏を追ってタリム盆地を支配した。
- ・前 2 世紀、前漢の () は積極的に匈奴を攻撃して西域に進出した。
 - 内紛もあり、匈奴は東匈奴と西匈奴に分裂し、東匈奴が南北にも分裂した。
 - ※北匈奴の一部は、ヨーロッパに渡り () となったという説がある。
- ・南匈奴は、西晋の内乱である () の際に侵入した「五胡」のひとつとされ、316 年には () で西晋を滅ぼした。

- ☆ () (前 3 世紀ころ～後 1 世紀ころ)
 - ・甘粛やタリム盆地にいた月氏が、匈奴や烏孫に追われてアム川上流に移動した。
 - ・前漢の () は、匈奴をはさみうちにするため () を派遣した。
 - ・大夏 (トハラ) を滅ぼし、北西インドでクシャーナ朝を建国したという説がある。

- ☆東胡 (前 3 世紀ころ)
 - ・内モンゴルにいたが、匈奴の冒頓単于に滅ぼされた。

- ☆ () (前 2 世紀ころ～後 5 世紀ころ)
 - ・天山山脈近郊のイリ地方で活動し、前漢と同盟したが 5 世紀ころ柔然に滅ぼされた。

- ☆ ()
 - ・中央アジアの地域名だが、古くから国家が成立していた。
 - ・張騫の報告によって、() という名馬の産地であることがわかり、これを獲得するために前漢の武帝が李広利を派遣した。

